

独立行政法人日本スポーツ振興センター
令和7年度第2回入札監視委員会議事概要

1 開催日

令和7年12月16日（火）10時00分～11時30分

2 開催場所

外苑事務所大会議室 1

3 出席委員（敬称略）

委員長 宮 直仁（公認会計士）

委員 齊藤 誠（弁護士）

委員 川瀬 貴晴（国立大学法人千葉大学名誉教授）

4 オブザーバー

児玉 進矢（監事）

大橋 玲子（監事）

5 議 題

- （1）令和7年4月から令和7年9月までの間に発注した建設工事の入札及び契約の運用状況等について（報告）
- （2）令和7年4月から令和7年9月までの間に発注した設計・コンサルティング業務の入札及び契約の運用状況等について（報告）
- （3）令和7年4月から令和7年9月までの間の指名停止等の措置状況について（報告）
- （4）抽出した建設工事及び設計・コンサルティング業務に関する審議
- （5）その他

6 議事概要

- （1）令和7年4月から令和7年9月までの間に発注した建設工事の入札及び契約の運用状況等について（報告）
事務局から報告を行い、委員からの意見・質問は特になかった。
- （2）令和7年4月から令和7年9月までの間に発注した設計・コンサルティング業務の入札及び契約の運用状況等について（報告）
事務局から報告を行い、委員からの意見・質問は特になかった。
- （3）令和7年4月から令和7年9月までの間の指名停止等の措置状況について（報告）
事務局から報告を行い、委員からの意見・質問は特になかった。

(4) 抽出した建設工事及び設計・コンサルティング業務に関する審議

令和7年4月から令和7年9月までの間に発注した案件のうち、委員により事前に抽出された以下の5件の審議を行った。

| 建設工事 | 3件 | 件名 |
|------------------------------|----|--|
| 一般競争入札 (政府調達に関する協定適用対象工事) | — | |
| 一般競争入札 (上記を除く。) | 3件 | ・HPSC・アスリートヴィレッジ自動制御設備改修工事 ・HPSC電話交換機等更新工事 ・国立代々木競技場電気設備改修工事 |
| 工事希望型競争入札 | — | |
| 通常指名競争入札 | — | |
| 随意契約 | — | |
| 設計・コンサルティング業務 | 2件 | |
| 公募型プロポーザル | — | |
| 簡易公募型プロポーザル | — | |
| 簡易公募型プロポーザル(拡大) | — | |
| 標準型プロポーザル | — | |
| 一般競争入札 | 1件 | ・国立代々木競技場附属棟屋上プロムナード等防水 その他調査業務 |
| 随意契約 | 1件 | ・国立登山研修所本館改修その他工事(I期)設計 意図伝達業務 |
| 抽出案件(合計) | 5件 | |

審議の結果、いずれの案件も了承された。

なお、委員の質問及びそれに対する回答並びに委員の意見のうち、主なものは次の通りである。

① 日本スポーツ振興センターHPSC・アスリートヴィレッジ自動制御設備改修工事

(質問) 本案件の落札業者の等級が管工事A等級ということは、競争参加資格をB等級からA又はB等級に広げたことにより入札が成功したという効果があったということか。

(回答) そのとおりである。

(質問) 落札率が高く1回の入札で落札者が決まったが、予定価格はどのように積算したのか。

(回答) 公共建築工事積算基準に基づき専門工事として予定価格を算出したものである。

② 日本スポーツ振興センターHPSC電話交換機等更新工事

(質問) 評価項目得点配分の工事成績は何に基づいて出されているのか。

(回答) 工事成績相互利用登録発注機関が発注した「公共建築工事成績評定要領作成指針」に基づいて採点化された工事成績に基づいている。

(質問) 電話のIP化が進んできているため、電話交換機を使わないという選択もできたわけだが、比較検討した上で、電話交換機が選択されたのか。

(回答) クラウド化含め IP 化を検討したが、法人全体としては IP 化が進んでいないこと、また、工事の範囲がハイパフォーマンススポーツセンターだけであったことから、今回は電話交換機単体の更新工事を選択した。外部回線に関しては基本的に光回線が主流となってきていることから、順次、光回線への移行を進めている。

(質問) 本案件は低入札調査を実施しているが、予定価格との乖離は労務費と機器費のどちらのウエイトが大きかったのか。

(回答) 機器費の部分が予定価格より乖離していた。機器は親会社から仕入れられたことから、仕入価格を低く抑えることができたと聞いている。なお、施工体制確認に係るヒアリング及び低入札調査を実施し、施工体制に問題が無いことの確認も行っている。

(質問) 従前の機器は本案件の機器と同じメーカーか。また、施工業者も同じか。

(回答) 機器は同じメーカーだが、施工業者は異なる。

(質問) 工期は 8 か月となっているが、それほど工期がかかる工事であったのか。

(回答) 機器の納入に半年程度必要ということで、工期は 8 か月と設定した。

③ 日本スポーツ振興センター国立代々木競技場電気設備改修工事

(質問) 大型映像装置とバッテリーの更新サイクルはどのくらいか。

(回答) 大型映像装置は 15 年から 20 年程度が目安である。ただ、本案件に関しては、メーカーが修理部品を製造しなくなるため、10 年弱での更新となった。なお、バッテリーは 10 年から 15 年程度で更新をしている。

(質問) 不具合が起きたことによる改修工事ではなく、決められた更新サイクルで改修工事を行っているということか。

(回答) そのとおりである。バッテリーに関しては、足下灯と非常照明で使っていることから、バッテリーが使用できない場合、法的な部分をクリアできないこととなる。大型映像装置に関しては、修理部品が供給できなくなるとイベント主催者が利用したい時に利用できない事態になってしまうため、常時使えるようにしている。

(質問) 大型映像装置の改修とバッテリーの交換をあわせて調達するメリットは何か。

(回答) 本案件は代々木競技場を営業する中での工事であり、営業を止めて工事ができる日程は 15 日間しかなく、工期を短くすることが必要であった。また、別々に調達するよりも、一つにまとめて工事をすることで経費を抑えることができる。

(質問) 施工実績は公表されている為、調べる手段としてあるが、競争参加資格等を広げ、より多くの業者が入札に参加するように工夫できないか。

(回答) 単一画面の大きさとして表示部 60 平米以上としてしまうと、大きな装置を扱う業者に絞られてしまうため、商業施設等に設置されている大型映像装置等の規模である表示部 30 平米とすることで、より多くの業者が参加できるように工夫した。

④ 日本スポーツ振興センター国立代々木競技場附属棟屋上プロムナード等防水その他調査業務

(質問) 最初に公告を出したのはいつか。

(回答) 令和 7 年 4 月 4 日であり、同じ年度内に再度公告を出した。

(質問) アスベストはあったか。

(回答) 以前、アスベスト除去工事を行っているため、本業務範囲にはアスベストはないと考えて

いる。

(質問) 雨漏りは以前からあったのか。また、2019年に耐震改修工事を行っているが、雨漏り工事は行ったか。

(回答) 雨漏りはあったと聞いている。2019年の工事ではエキスパンションジョイントとその周辺の防水工事を行った。

(質問) 第1回目の入札では入札参加者がなかったが、競争参加資格を緩和した結果、入札参加者が現れたという評価でよいか。また、第1回目から技術者に対し重要文化財の業務経験者という条件を付していないのはなぜか。

(回答) 第1回目の入札では入札不調になっていることから、再度公告の競争参加資格を「重要文化財」に指定された建造物での実績に加え、「登録有形文化財」を追加し、建物種別を「鉄筋コンクリート造」としていたところを、「鉄筋コンクリート造又は鉄骨鉄筋コンクリート造」に緩和した。また、配置予定技術者に対する重要文化財での業務経験という条件は広く参加者を募るため、当初から付与していない。これらが条件緩和につながり、落札に至ったと思う。

⑤ 日本スポーツ振興センター国立登山研修所本館改修その他工事（I期）設計意図伝達業務

(質問) 工事監理業務はだれが行うのか。

(回答) 当センターである。

(5) その他

(質問) 令和7年10月から、建設工事と設計・コンサルティング業務の少額随意契約により発注することができる基準額が上がったということか。

(回答) 物価高や人件費の高騰により、国では令和7年4月に少額随意契約で調達できる範囲を見直している。これにともない、当センターでも規程改正を行った。

7 委員会による意見の具申又は勧告

意見の具申又は勧告はなし